

研究開発

Research & Development



THKの開発テーマは、独自の技術ロードマップとトップメーカーならではの豊富なユーザーニーズをもとに策定されています。これまで培われた開発者の経験とノウハウを最大限に活用する機動的なプロジェクト型の開発体制がスピーディーな製品開発を実現しています。



当社は「世にない新しいものを提案し、世に新しい風を吹き込み、豊かな社会作りに貢献する」との経営理念のもと、創造開発型企業を標榜し、独創的な製品開発に注力しております。

1972年、当社が世界ではじめて開発したLMガイドは、80年代の米国の工作機械メーカーでの採用をきっかけとして、工作機械での使用率が急速に高まりました。その後も、半導体製造装置、産業用ロボットなど、当社製品を採用する

産業の裾野が広がる中で、高精度化、低コスト化といったお客様のニーズを捉えた製品を次々と開発してまいりました。

1996年には第2世代のLMガイドとなる、ボールリテーナ入りLMガイドを他社に先駆けて開発しました。ボールリテーナ入りLMガイドは、困難とされていた直線ベアリングのリテーナ化を世界ではじめて実現したLMガイドであり、今日、工作機械、半導体製造装置をはじ

めとする各種産業用機械の高速化、低騒音化、長寿命化には必要不可欠な部品となっております。また、現在はLMガイドのみならず、ボールねじ、ボールスプラインやLMガイド、ボールねじを組み合わせたユニット品においてもリテーナシリーズの拡充を図っております。

現在、研究開発部門である技術本部は本社、甲府、山口、山形に拠点を置き、約150人のスタッフで開発に取り組んでいます。新製品の開発に関しては主に技術開発統括部が中心となり、開発案件に応じたプロジェクト型の開発体制がスピーディーな製品開発を実現しています。また、新規分野への展開を図るべく、MRCセンターやCAPプロ

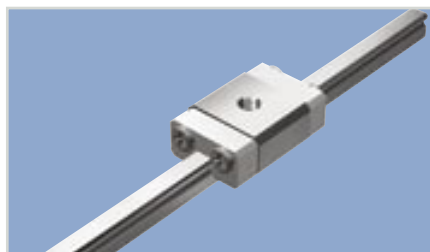
ジェクトなどの新しい組織を立ち上げて製品開発に取り組んでおります。

2005年度に入り、技術本部では「感動を与える製品を作ろう」というスローガンを打ち出しました。「大型化・マイクロ化・減衰」というキーワードのもと、お客様がまだ気づかれていない、5年先、10年先のニーズを見据えた真のマーケットイン的な開発思想に基づく次世代製品の開発を目指すとともに、現在のお客様のニーズに対応した製品ラインナップの拡充にも努めてまいります。

また、今後はエレクトロニクス産業を中心として開発期間や製造リードタイムの短縮を実現するために、モジュー

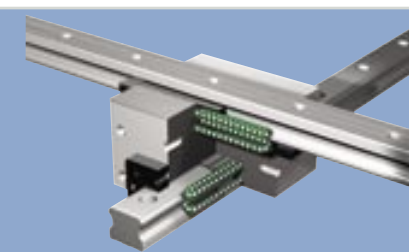
ル化のニーズが高まるものと考えられます。これらの需要を取りこぼすことがないように、当社ならではのユニット製品を開発することも重要課題と位置付けております。

前述のとおり日本での開発体制は、より強固なものになってまいりました。グローバルでの生産・販売体制が整いつつある中、今後は世界各地それぞれのお客様のニーズにより的確にお応えできるよう、日、米、欧、アジアの4極を視野に入れた、最適地での開発体制の構築を進めてまいります。



マイクロLMガイド RSR1/RSR2

超小型化ニーズへ対応するため、レール幅1mmの世界最小のLMガイドを開発しました。当社の開発力や加工技術の高さを実証した製品です。医療機器や半導体製造装置、精密機械、各計測器などへの採用が見込まれております。



ボールリテーナ入りクロスLMガイド SCR

ボールリテーナ入りLMガイドSHSのLMブロックを背面合わせに直交させ、LMレール2本を組み合わせた一体形のLMガイドです。X-Y運動の構造が簡素化されコンパクトな設計を可能とした製品です。



ロッドアクチュエータ CRES

オフィスや家庭内における電動化需要の増加にお応えすることができるよう、簡単な制御で動作可能なロッドタイプアクチュエータを開発しました。高所窓の電動開閉、ブラインドの電動開閉などさまざまな用途でご使用頂けます。